

<p>6. 事業内容</p>	<p>開発協力事業</p> <p>「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標 4 : すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。</p> <p>4.5 : 2030 年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にあるこどもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。</p> <p>1. 1) <u>キーティチャー(※) 育成研修毎年 7 月 (N 連の予算で実施)</u> <u><研修 1></u> ※各省の教育局が小学校の校長・副校長・教育局の職員から選任</p> <p><u>ビントゥアン省</u> 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チームが、ビントゥアン省の 20 名の初等教育のキーティチャーに対して、1 回 10 日間、キーティチャーの育成研修を実施する。また、ビントゥアン省の 10 名の幼児教育のキーティチャーに対して、1 回 10 日間、キーティチャーの育成研修を実施する。それにより、ビントゥアン省の 10 地区に、各 3 名のインクルーシブ教育のキーティチャーを育成する。</p> <p><u>アンザン省</u> 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チームが、アンザン省の 20 名の初等教育のキーティチャーに対して、1 回 10 日間、キーティチャーの育成研修を実施する。また、アンザン省の 10 名の幼児教育のキーティチャーに対して、1 回 10 日間、キーティチャーの育成研修を実施する。それにより、アンザン省の 11 地区に、各 3 名のインクルーシブ教育のキーティチャーを育成する。</p> <p>* ホーチミン市障害児教育専門家チームには、先行事業で育成されたドンナイ省とラムドン省の 60 名のキーティチャーの内、数名の特に優秀なキーティチャーも参加する。ドンナイ省、ラムドン省のキーティチャーは現場でインクルーシブ教育の様々な問題を抱えながら先行事業で専門家から数年間に渡り研修を受けているので現場に即した学習を提供できる実力を備えた。</p> <p>① 事業 1 年目は、主に障害ある児童の認識、教師のインクルーシブクラスの運営、IEP (個別教育計画書) の作成方法に焦点をあてた研修を実施した。</p> <p>② 事業 2 年目は、より実践的な、IEP (個別教育計画書) を作成する上で不可欠な障害ある児童の観察手法、障害ある児童の両親へのカウンセリング手法、クラス内で同級生が障害ある児童を支援する見守り隊の結成方法、小学校内で、校内のインクルーシブ教育を支援するリソースチームの結成方法などの研修を実施する。</p> <p>1. 2) <u>キーティチャー(※) 育成実地研修毎年 4 月 (N 連の予算で実施)</u> <u><研修 1></u> 7 月実施の 10 日間研修に加え、4 月に、ビントゥアン省の 30 名のキーティチャーは、ホーチミン市かドンナイ省かラムドン省のインクルーシブ教育のモデル校を訪問して、3 泊 2 日間の実地研修を受ける。</p> <p>2. <u>各小学校校内指導教師研修 毎年 11 月 (N 連の予算で実施) <研修 2></u></p>
----------------	---

当会が結成したホーチミン市の障害児教育専門家チームが、ビントゥアン省、アンザン省で、それぞれ 200 名を対象にしたインクルーシブ教育研修を、各省 1 回 3 日間:幼児教育、各省 2 回 6 日間:初等教育対象の研修を実施する。それによりビントゥアン省、アンザン省の各小学校と各幼稚園に 1 名～3 名のインクルーシブ教育の校内指導教師を育成する。(各省 300 校の小学校)

* ホーチミン市障害児教育専門家チームには、先行事業で育成されたドンナイ省とラムドン省の 60 名のキーティチャーの内、数名の特に優秀なキーティチャーも参加する。

3. 各地区の地区内研修 毎年 8 月～10 月 (ビントゥアン省、アンザン省各地区教育室の予算で実施、アジア・レインボーの専門家による適時の支援) <研修 3>

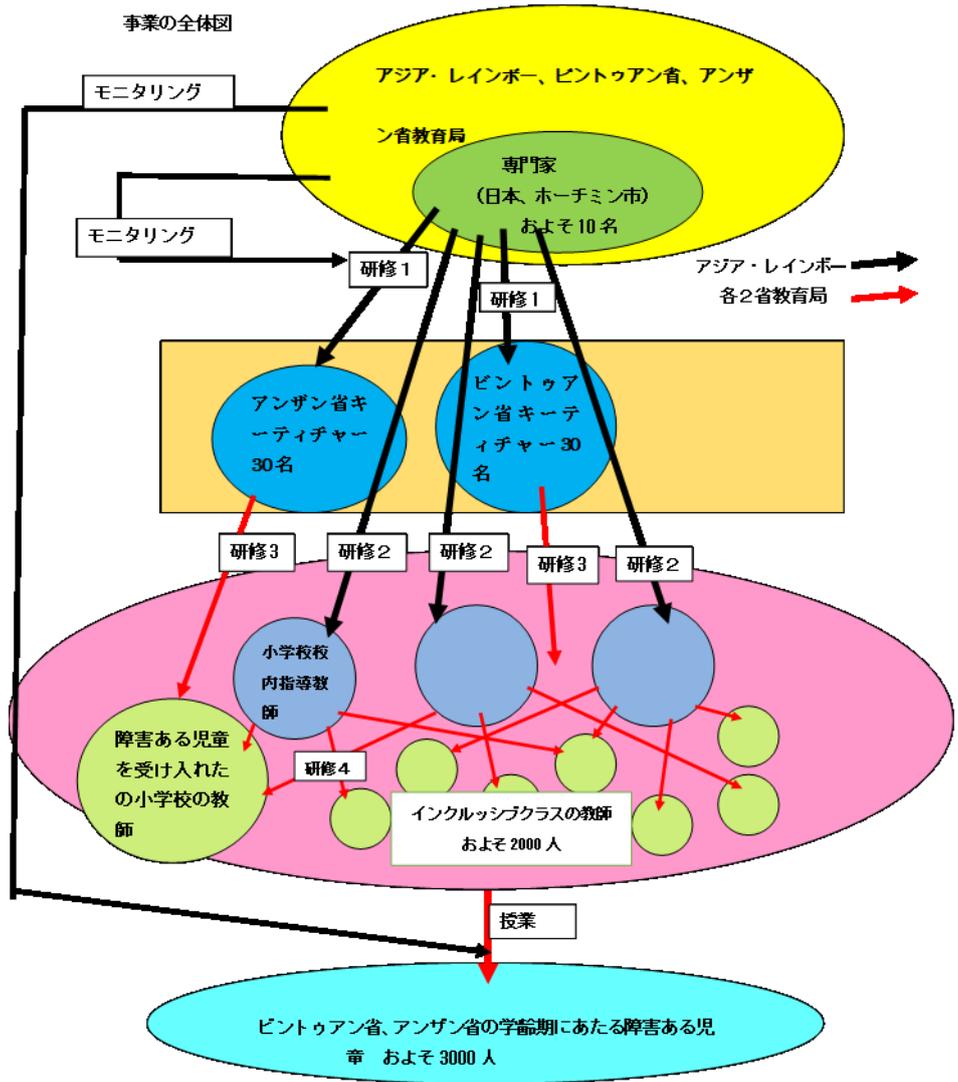
ビントゥアン省、アンザン省の各地区では、各地区 3 名のキーティチャーが自身の所属する地区内の障害ある児童を受け持つすべての教師 (およそ 50 名～100 名) に対して、必要時研修を実施する。

4. 各小学校、幼稚園の校内研修 毎年各学校の適時 (ビントゥアン省、アンザン省各地区教育室の予算で実施、アジア・レインボーの専門家による適時の支援) <研修 4>

ビントゥアン省、アンザン省の各小学校と各幼稚園では、専門家により育成された校内指導教師が、障害ある児童を受け持つすべての教師に対して、必要に応じて研修を実施する。

5. 各省全地区対象モニタリングの実施

アジア・レインボーは、毎年、各省、全地区でモニタリング及びカウンセリングを実施する。モニタリングでは、毎年 2 省の全地区の小学校を訪問して、各地区のインクルーシブ教育研修の構築状況を把握する。



直接裨益人口

障害ある児童を受け入れている小学校の教師
 障害ある児童を受け入れている幼稚園の教師
 2省 2,000人
 学齢期にあたる障害ある児童 2省 3,000人

間接裨益人口

障害ある児童の両親、家族 2省 およそ6,000人

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など

①これまでの事業における成果

ピントゥアン省では、8月16日～10月14日にかけて全10地区が各地区で地区研修を実施した。各地区、初等教育研修を1日間～2日間、幼児教育研修を1日間～2日間実施した。各地区では2つの研修、全地区では20の研修がすでに実施された。研修参加者は、20研修会場全部で864名である。
 <補足資料 研修3>

研修内容は、

- (1) 知的障害の概要
- (2) IEPの作成

(3) 障害ある児童の学習プログラムの調整

さらに、この 864 名の地区研修参加者は、自身の所属する学校で、各小学校内研修、各幼稚園内研修もすでに実施した。 <補足資料 研修 4 >

対象者：277 の小学校—5898 名の小学校教師
187 の幼稚園—3421 名の幼稚園教師

アンザン省では、8 月 25 日から 9 月 1 日にかけて、全 11 地区が各地区で地区研修を実施した。各地区、初等教育研修を 1 日間～2 日間、幼児教育研修を 1 日間～2 日間実施した。各地区では 2 つの研修、全地区では 22 の研修がすでに実施された。研修参加者は、22 研修会場全部で 1394 名である。
<補足資料 研修 3 >

研修内容は、

- (1) 障害ある児童についての認識
- (2) 障害ある児童についての政府の法律と政策
- (3) 小学校におけるインクルーシブ教育の学習
- (4) 障害者が社会へ参加する上での現在の課題
- (5) IEP（個別教育計画書）の作成演習

②これまでの事業を通じての課題・問題点

60 名のキーティチャーは、実際の成功しているインクルーシブ小学校を見学する事を皆望んでいる。

③上記②に対する今後の対応策

2018 年度事業の 1) の活動として、7 月実施の 10 日間研修に加え、4 月に、ビントウアン省の 30 名のキーティチャーは、ホーチミン市かドンナイ省かラムドン省のインクルーシブ教育のモデル校を訪問して、実地研修を受ける。

2019 年度事業の (ア) の活動として、7 月実施の 10 日間研修に加え、4 月に、アンザン省の 30 名のキーティチャーは、ホーチミン市かドンナイ省かラムドン省のインクルーシブ教育のモデル校を訪問して、実地研修を受ける。

④「持続可能な開発目標 (SDGs)」

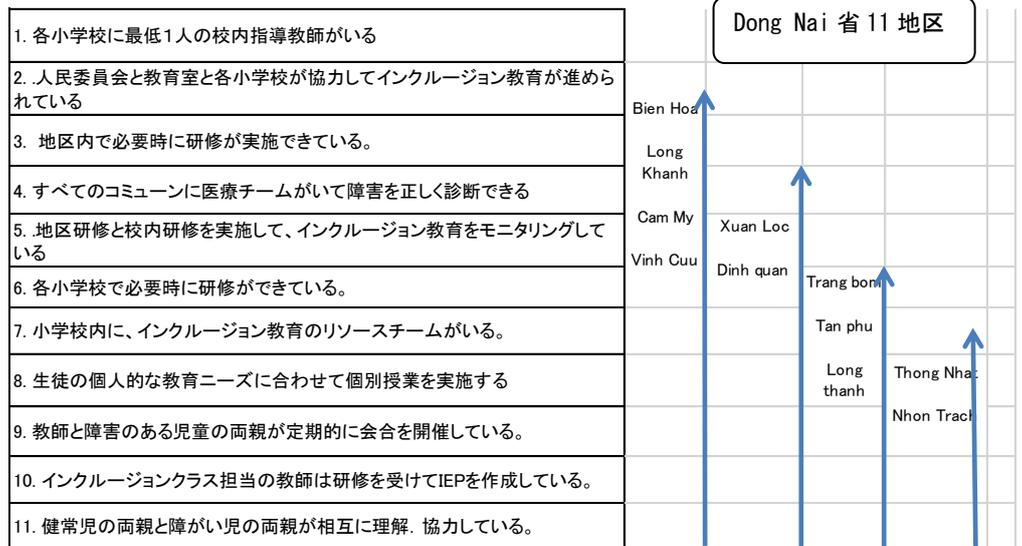
目標 4：すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。 4.5：2030 年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。

実施事業においては、すべての障害ある児童が対象になる。特に、特別学校は経済的事情で行くことができないために家にいるだけの障害ある児童が、近隣の小学校へ行って、同級生と一緒に学ぶ事ができる環境を構築する事業であるので、事業実施後は、毎年、障害ある児童の就学人数が多くなる。ま

	<p>た、受け入れた教師も適切な研修を受けるので、障害ある児童の学習や生活習慣が上達して、退学もほとんどない。</p>
<p>8. 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>1. 期待される成果と成果を測る指標</p> <p>①<u>退学率の減少</u>：教師は研修を受けることによって障害ある児童に対する受入れのスキルが高められ、これにより在学中の障害ある児童の学習面、生活面が改善されるため退学率や休学率が下がる。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退学率が、第2年次の事業終了時には、各省10%減少する。 ・休学率が、第2年次の事業終了時には、各省5%減少する。 <p>②<u>就学率の向上</u>：現在、既にキーティチャーや教師は地区内の障害ある児童がいる家庭を訪問して、近隣の小学校への就学を勧める活動を実施している。現時点でまだ教師の障害ある児童に対する教授スキルが不十分であるため、全ての障害ある児童に対して対応できない学校もある。本事業を通して、教員のインクルーシブ教育のスキルを向上し、障害ある児童の学習の向上につながる学校環境の改善を行えば、障害ある児童を通学させようとする家庭が増えるため、障害ある児童の就学率も上がる。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学率が、第2年次の事業終了時には、ビントゥアン省10%、アンザン省20%増加する。 <p style="text-align: center;">＜先行事業の成果例＞</p> <p>2014年～2017年ドンナイ省、ラムドン省インクルーシブ教育研修システムの構築事業（外務省NGO連携資金無償協力）</p> <p>① 障害ある児童の就学状況</p> <p>2015 - 2016</p> <p>学齢期における障害ある児童の数：1,896人 特別学校に通う児童の数：154人 近隣の小学校に通う児童の数：1,118人 事業実施2年目：59%の障害ある児童が初等教育を受けている</p> <p>2016 - 2017</p> <p>学齢期における障害ある児童の数：1,776人 特別学校に通う児童の数：164人 近隣の小学校に通う児童の数：1,412人 事業実施3年目：80%の障害ある児童が初等教育を受けている</p>

② 事業実施後の各地区のインクルーシブ教育の進捗を図るグラフ

Dong Nai省インクルージョン教育研修システムの構築の達成度 2016年2月



2. 成果を測る指標の確認方法

アジア・レインボーは、毎年、各省、全地区でモニタリング及びカウンセリングを実施する。モニタリングでは、毎年2省の全地区を訪問して、各地区のインクルーシブ教育研修の構築状況を把握する。また、毎年600名の障害ある児童、両親、教師に対して、小学校に通うようになってどのように児童に変化があったか。教師が研修に参加して、教師はどのように変化があったか等をヒアリングして、事業の成果や問題点を詳しく把握する。カウンセリングでは、現場の教師、障害ある児童と両親に、アジア・レインボーの専門家がカウンセリングを実施する。これにより、毎年、2省合計すると、400名対象のカウンセリングを実施する。